

中国 P2P ネット金融プラットフォームのイベントヒストリー分析

徳島文理大学 水ノ上智邦

徳島大学 趙彤

本稿は、わずか 10 年の間に急激な成長を遂げた中国の P2P ネット金融において、仲介業務を果たしている取引サイト（プラットフォーム、以下 PF と略す）の活動について分析している。具体的には、中国 P2P ネット金融のポータルサイトである「網貸之家」が収集・集計した各 PF に関する 2016 年 1 月～2017 年 3 月までのパネルデータを用いて、PF における問題発生についてのイベントヒストリー分析を行った。さらに問題発生はしていない PF の間の競争について理解するため、PF の取引高についてのパネルデータ分析を行う。中国の P2P ネット金融市場は、2007 年に「拍拍貸」と「宜人貸」がサービスを開始して以来、既存の伝統的金融機関から排除されてきた農家や中小企業の旺盛な資金需要を背景に、PF 数、取引規模ともに 2016 年まで急拡大してきた。2010 年には 13.7 億元であった取引総額は、2015 年には 9,823 億元に上り、2016 年は上半期だけでも 1 兆元を超えるに至った。そのような中国の P2P ネット金融市場であるが、あまりに急速な成長の弊害として、少なくとも PF が夜逃げ、倒産、支払不能などの問題を起こしている。

本稿の分析により得られた知見は次のとおりである。まず、PF における問題発生の決定要因として、取引高の大きさと、PF でのローン証券への投資総額に占める上位 10 名による投資総額の大きさが問題発生確率を引き下げることが明らかになった。次にパネルデータ分析の結果から、1 期のラグ付きの取引高および資本金の大きさが取引高増加に有意な正の効果を持ち、規模の大きな PF がますますその規模を大きくし、中小 PF が淘汰されつつある現状が明らかになった。また、ローン証券の平均利率の高さが取引高を押し上げる効果が確認でき、中国 P2P ネット金融特有の慣習が、実際に PF により利率の高いローン証券を扱わせるインセンティブとなっている可能性が浮かび上がってくる。